

第 15 回 土岐川流域新五流総地域委員会 議事概要

日時：令和 6 年 1 2 月 2 5 日（水）14:00～16:00

場所：東濃西部総合庁舎 5 階 大会議室

1. 議事

（１）「土岐川流域における総合的な治水対策プラン」の改定（素案）について

- 1) 改定の概要について 資料 1 資料 2
- 2) プランの内容について 資料 3 資料 4 資料 5 資料 6

（２）今後の進め方について 資料 7

2. 議事要旨

（１）「土岐川流域における総合的な治水対策プラン」の改定（素案）について

土岐川流域における総合的な治水対策プランの前回（平成 2 6 年 3 月）改定から 1 0 年が経過した。激しい降雨等の気候変化や温暖化への対応、それに治水だけでなく、国土の在り方そのものを見直す必要性も指摘されている。河川整備だけでは水害は防げないため、流域治水をメイン施策とし、地域のみんなで一体となり、協力して取り組んでいくことが重要である。

1) 改定の概要について

河川課から資料 1，2 を用いて改定の概要説明があった。

質疑応答、主な意見は下記のとおりである。

- ・みんなで水災害対策（流域治水）を進めていこう。
- ・今回のプラン改定は、この 1 0 年で新たに生じた課題（水災害の激震化・頻発化、人口減少、財政状況等）や考え方、視点（流域治水、D X（デジタル技術活用）、自然共生等）を積極的に導入する。
- ・自然環境を元に戻し、よくしていこう。（ネイチャーポジティブ）
- ・自然が持つ機能をインフラに活用していこう。（グリーンインフラ）

2) プランの内容について

事務局から資料 3，4，5，6、を用いて改定プランの内容説明があった。

質疑応答、主な意見は下記のとおりである。

- ・河川改修と自然共生川づくりは相反するものではないか。
 - 相反するものではない。河川環境に配慮しながら川幅を広げ、流れを緩やかにすることで治水効果を高めている。「流速を上げない」という考え方が重要である。洪水を安全に流すためには、用地を確保することが必要で、自然環境にも配慮することができる。ただし、過剰に川幅を広げると、維持管理が困難になる。

- ・治水と河川環境に関する定量的な目標設定が必要である。災害復旧や維持管理でも多自然川づくりの観点は取り入れられた。災害復旧においては、単純な原形復旧にとどまらず、環境や治水にプラスとなる取組みが進められている。維持管理においても、河川内に堆積した土砂を持ち出す工事の際は、現地の石はできる限り河川内に残すなど河川環境を残す取組みが重要である。

【各市の意見】

- ・多治見市：国の流域治水プロジェクトと連動しながら進めていきたい。平成23年の大きな災害を受けて、ハード対策が行われ、維持管理も進められてきた。今後は、これらに加えてソフト対策にも力を入れていきたい。流域みんなで一緒に進めていくことが重要である。
- ・土岐市：大きな災害に繋がらないよう連携していきたい。避難訓練や防災教育、監視カメラの設置、浸水センサーの試験運用等により逃げ遅れがないようにしたい。ハード対策単独では地域を守ることは難しいため、ソフト対策を含めて進めていくことが重要である。
- ・瑞浪市：平成元年に大きな災害があり、薬師橋で1.7m程度浸水した。その後、大きな災害は発生していないが、土岐橋周辺や釜戸地域では依然として治水対策が求められている。流域の各関係者と連携しながら、まちづくりに力を入れていきたい。
- ・恵那市：市が管理する河川の治水にも積極的に取り組んでいる。引続き、予算の補助をお願いしたい。氾濫しそうな場所についても検討が必要である。短期目標をいかに実現していくかが重要である。

【各委員からの意見】

- ・田んぼダムについては、進められないか。
- 田んぼダムは、河川の洪水を減らすだけでなく、地域の内水被害を減らす効果があるため、重要である。今後、岐阜県農政部からマニュアルが発行される予定である。見える範囲でまずは取組みを始め、住民に具体的なメリットを感じてもらえるようにしていくべきである。
- ・今後、さまざまな多自然型の取組みが進められるべきである。土岐川と佐々良木川の合流点付近では、魚が住む環境が減っていると感じるため、魚の住む環境を残してほしい。ただ洪水を流すのではなく、環境と共生できる方法を十分に留意して進めていただきたい。
 - ・自然との共生は重要であり、環境に関する教育も継続的に行うことが必要である。

(2) 今後の進め方について

河川課から資料7を用いて今後の進め方について説明があった。

以 上